

～モニュメントが 完成しました!～



第52号

しらすぎ会総会は
5月の第3土曜。次回は
2019年5月18日



高知女子大学発祥の地に記念となるものを残したいとしらすぎ会理事、建設小委員会を中心として作業を進めてまいりました。会員のみなさまに、たくさんのご寄付をしていただき、やっとモニュメントが完成しました。ご協力ありがとうございました。

2018年3月23日(金)は、永国寺キャンパス第2・3期整備工事完了お披露目に引き続きモニュメント贈呈式がありました。

ご挨拶

しらすぎ会長
記念碑建設委員長

山崎 美恵子

本日は、公立大学法人主催によるお披露目にモニュメント贈呈の時間をとっていただきましてありがとうございます。

三月六日に白鷺をアレンジしたモニュメント「詩の翼」が完成いたしました。当日は紺碧の空のもと北山を遥かにして地域交流広場で春風にのって白鷺が飛んでいる作品が組み立てられていきました。

その光景を最初から組み立てて終わるまで、しらすぎ会理事であり記念碑建設委員である数名の者は感激と共に高知県立大学創立七十一年の歴史とともに母校に対する思いがこのモニュメント「詩の翼」に込められていることに感動し喜びにたえませんでした。

モニュメント「詩の翼」を制作していただきました新宮晋先生に深く深く感謝しお礼申しあげます。

世界に名を馳せる造形作家新宮晋先生には高知県立大学の教育理念や歴史など、そして私達同窓会は高知城に飛来する白鷺から「しらすぎ会」と命名した由来をご理解いただき、その思いを作品に表現していただきました。新宮先生本当にありがとうございました。

募金活動にご協力いただいた卒業生をはじめとする皆様方、公立大学法人の方々、私学大学支援課や建築課の方々、建築事務所の方々、県立大学の教職員の方々、工事関係者の方々のご指導ご教示をいただきまして今日の日を迎えることができましたことに深く感謝申し上げます。

すでに教育研究棟が新しくなり、今日このように体育館・図書館・地域交流広場が新しく完成し七十年前の大学の様相が発展し二変いたしました。

この学び舎を巣立っていった卒業生は、それぞれ在学した年度によって、母校への思い出は様々なことでしょう。しかし今、一万二千人余の卒業生は母校がこのように発展していくことに誇らしさを感じない人はいないとおもいます。

そしてこのモニュメント「詩の翼」は高知県立大学同窓会しらすぎ会から公立大学法人に

本日をもって寄贈いたします。一万二千人余の卒業生の思いをこめて、これからは高知県立大学のランドマークとなり、在学生・卒業生・県民のための芸術作品としてこの地域交流広場で四季折々の風に舞って、白鷺の羽を広げ紺碧の空のもと、寒風ふく冬空のもと、爽やかな秋風のもと嵐に耐えて舞ってくれるモニュメント「詩の翼」は高知県の文化向上の一翼を担っていただき私達を鼓舞してくれることを願っております。

同窓会しらすぎ会からのご挨拶とさせていただきます。



24日(土)には、永国寺キャンパスで、「モニュメント完成を祝う記念講演会」を開催しました。新宮晋先生を講師に迎え、「未来へのメッセージ」という演題で講演していただきました。

未来へのメッセージ

風の彫刻家 新宮 晋



今日、作品が無事に建っているのを見てほっとしました。私は一作一作新しい試みをしていますから、毎回どきどきしているのです。

この作品は六年がかりのプロジェクトでした。皆様のご努力はたいへんなものだったでしょう。私も成長しながらの六年間でした。

作品を考えたのは確かに私なのですが、自然の中に立つと、それは別の人格を持ちます。季節の変化の中で、生活の中で、この学園の生徒や近隣の人たちに、何かしらの思いを持ってもらえることができれば作品も幸せです。



地球は「土のたま」と書きますが、実は三分の二は水に覆われています。地球は、実は水球かもしれない。また、地球は回転する元気のいい星。地球は「風の星」だと思ふ時もあります。私には、いまだに地球が不思議な星に見えるのです。

常に好奇心と観察力、感動が大切で、それらがあればこそ、ストレートに人に伝えることができます。人に伝えるためには技術よりも新鮮な驚きが必要なのです。大人になると子どもの時の驚きが失せてしまうのは残念なことです。

六十歳くらいの時、人間ドックで引っかけ、そのとき初めて「もし余命わずかと言われたら、何をすべきか」と考えたのです。そして、地球のことを知らないままに逝ってしまうのは残念だと思いました。もっと地球を知ろうと考えて、人力で組み立てる屋外彫刻を、巨大なコンテナに積み、できる限り「地の果て」まで持つて行くことにしました。

敵から逃れて北の果てにたどり着いた人々のいる所や、先住民のいる所：そんな場所では、きつと、もつと自然とつながった生活をしている人達に会えるだろうと思つたのです。六つの場所を探すために地球を十周しました。

ここから、美しくも興味深い場所の映像が次々に紹介されました。モロッコ、モンゴルの大草原、ニュージールランド、オークランド沖の無人島、フィンランド・イナリの凍結湖上、ブラジルの大砂丘、そして最後にアトリエ前の日本の田園地帯(青い鳥は身近にいる)。

どのプロジェクトでも地域の人たちとの交流があります。子どもたちとの交流は特に重要です。

再び映像で新宮先生の作品た

ちが紹介されました。広島が生口島、銀座、ジェノバ港、マンハッタン、パリの公園、アテネ、兵庫県有馬富士公園の一角…。

兵庫県には三十年にわたって制作した十二点の彫刻を寄贈しました。有馬富士公園内に出来た「新宮 晋 風のミュージアム」にはローマの円形劇場を感じさせるような場所があつて、そこで年二回、春と秋に野外パフォーマンスを行っています。池の上にステージを作り、人間国宝・梅若玄祥氏による能の上演、あるいはジャズコンサート。私の初めての絵本「いちご」をもとにしたミュージカルなど。



何だか芸能プロデュースのような仕事をしていますけど、私は、一人ではできないことを考えたいのです。何もかも自分がやってしまうのではなくて、みんなで作つて、若い人たちにしっかり受け継いでもらわないと、我々の星がだめになつてしまふと考えています。

熱意のある方のために作品を



つくることは嬉しいことです。今回のしらさぎ会の仕事もそうでした。作品を作ると、娘が嫁いだような気になります。作品を作つてさし上げると、そこから依頼主との親戚つきあいが始まる。そして、作品には長生きもしてもらいたい。

現代においては、あらゆることが細分化されています。それはとても恐ろしい事です。だけれど「全体」を見ないといけないなあと考えています。

講演会には同窓生をはじめ、学生、大学職員、一般の方もたくさん参加し盛会となりました。隣の教室では、新宮先生の御著書の展示をしました。

23日夕刻には、「新宮晋先生を囲みモニュメント完成を祝う会」を開きました。

ようこそ先輩 後輩の皆さん

道中由紀さん(国文学科35回生平成6年3月卒業) 山口県在住

人生の大先輩に育まれて

未来輝く子どもたちとのかかわりに興味があったはずが、ひよんなことから人生の大先輩に囲まれて生活するようになりまして。それからあつという間に20年がたちました。

私は、社会福祉法人の通いの介護施設で働いています。入職したところ、上司がよく言っていました。「いろんな人の生き方を見せてもらえる上にお給料までもらえるなんて、こんなにいい仕事はないよ」と。当時はよく分かりませんでした。今では本当にそうだなあと考えます。ここは、人生の終盤を輝かせようと努力しておられる方々



から傍に來られました。お肌がつやつや、背筋がまっすぐ。もの忘れがひどくて困ると言いながら、明るく笑い飛ばす一人

が集まれるところだと思っています。

朝から夕方までが、私の持ち時間です。

今日の最年長は98歳のYさん。ひ孫が小学校に上がるまでは頑張るとおっしゃっていました。今では高校生。「こんな世の中になるとは思わなかった、自分の考え方を覚えていかなきゃね」と、思考がしなやかです。大好きなお花の世話ができなくなる日のことを考えて、周囲の人に苗を配っておられます。後方からは、「こんなに長生きできるとは思わなかった」と、94歳のMさんが私の方をポンとたたきながら

暮らし。しかし、若いころは長く患ったそうです。
…年齢も経歴も現在の生活環境も違う方々が集まれる空間では、本当に様々な価値観に出くわします。人はみんな違うとい

栗国恵子さん(家政科7回生昭和49年3月卒業) 沖縄県在住

三度目の挑戦

私は昭和六十三年と平成十四年に城間婦人会長を務めました。自治会運営において婦人会の存在は不可欠です。然し、会員の減少や高齢化、故郷意識の希薄化等で存続が危うくなっています。青年会、子ども会と、順を追って無くなり、平成十七年に婦人会も休会となりました。夕暮れになると、路地裏に高齢の女性が顔を揃え談笑している光景を見ます。彼女たちを見ていて思うことがあります。



果たして自分があの年になり、同じ状況下にあっ、心おきな話せる友は何人いるだろうか。徳

うことに改めて気づかされます。この場所で縁あって出会ってきた方々は、後輩の私たちに人生の学びの機会を与えてくださいました。「ありふれた日常の中にこそ本当の幸せがある」「何でも一時辛抱して続けてみればいいことがある」などの言葉は、生きている時間を大切にしながらというメッセージなのだとい

思っています。
さて、今年の夏は、教職を目指す学生さんが5日間の体験にたくさん来ておられます。自分の夢に向かってこれから人生を切り開いていこうとしている若い人たちに、人生の大先輩の声を直に聞いてほしい、そこからいろいろなることを感じとってほしいと願っております。

島に住む母が沖縄へ最期に来た時の言葉を思い出します。八十歳になるから県外に住む子どもが、旅行を辞めると言うのです。万一そこで倒れるようなことがあると困るからだ。最期を迎える場所を子産み育て、多くの親しい人が居る所だと。そして私に「貴女の最期の場所は此処やね」と言ったのです。現代は、メールや携帯で通信できる時代ですが、果たして満足できるでしょうか。成熟した親子間の理想的な住まい方として『スーパの冷めない距離』という言葉があります。親の家と子の家の距離だけに気を取られがちですが、重視すべきは、スーパの受け渡しの際に生ずる会話なのです。顔を向き合わせ手から手へスーパが受け渡される時、『生身の声を聴く、自分の話を生身の人が聴いてくれる』高齡となった両親・連れ合いを

果たして自分があの年になり、同じ状況下にあっ、心おきな話せる友は何人いるだろうか。徳



▲城間婦人会(阿波踊り) 平成22年11月14日

縷砂恵子さん(家政学科14回生 昭和56年3月卒業) 高知県在住

デザインある人生を

実感は全くありませんが、ついに今年還暦を迎える年齢になりました。私は、大学卒業後、県の農業関係の技術職として転勤を繰り返しながら、現在は、この町にある農業大学で校長を担っています。中村農業改良普及所土佐清水支所の普及指導員として社会人の一歩を踏み出し、その後、香美市、東洋町、南国市、高吾地区の農業振興センターでの農業経営をはじめとする普及指導業務、農業技術センターでの農業経営研究、県庁での専門技術員としての現場指導、男女共同参画・土佐茶振興・6次産業化行政など様々な業務に従事しました。中でも平成22年に取り組んだ土佐茶情報発信拠点「土佐茶カフェ」の創設や県立大学井本研究室と茶業試験場との共同研究による土佐茶「茶葉々(ちゃらら)」の商品開発等の茶業振興プロジェクトは印象深い思い出です。

それぞれの部署・立場で農業者や地域の思いに答え、課題解決に導くことに力を注いできましたが、たくさんの素晴らしい方達との出会いによって自分自身も成長させていただいたことを感謝しています。

学生時代は、将来デザインに関わる仕事に就きたいと思って

いきましたが、縁あって全く違った道に進んでしまいました。しかし、「デザイン」の意味を広義にとらえると、「問題解決の本質を掘り下げ、解決のための設計を行い、設計に基づいた見目(表現)を作り上げ、問題を解決に導くこと」と定義されています。そうだとすれば、これまでやってきた農家のライフデザインや、農村の地域デザイン、人と人のコミュニケーションデザイン、学生のキャリアデザイン、組織マネジメントなど、どれも無形のデザインであり、作品のようにも思えます。そしてこれからの人生をいかにデザインしていくかが今の私の大きなテーマです。

自分の経験で作られた道の先を歩み、歩んだ道が人生になることを実感できる年代になりました。人生100年時代!皆様の人生デザインが輝けるものになりますように。

嶋村洋子さん(家政学科1回生 昭和43年3月卒業) 香川県在住

支部活動に新しい風を

しらさぎ会香川支部の役員の間に入り方をさせていただいたのは平成20年のこと。私は37年間の地方公務員としての勤務を終えて無事定年退職しました。現役時代は支部総会になかなか出席できず非常に申し訳ない気持ちでした。先輩から役員の間に入りのお誘いがあり、少しでもお役に立つことがあればと考えて役員をお引き受けしました。支部活動を通して先輩の方々から組織づくりや運営の仕方、同窓会のつながりの大切さなど、たくさんのことを学ばせていただきました。

平成23年11月13日の支部総会で支部長に選出されました。役員は、香川支部会則第6条に「役員は総会において選出され、在期は2年とする。」と記されています。私は現在4期目になります。

香川支部会則は平成11年6月26日に制定されて平成23年11月13日に改正され、第1条、第11条からなっています。会則によると、支部の目的は会則第2条「しらさぎ会の運営を支援し、会員相互の親睦を図る」こと。目的を達成するために会則第3条1項「会員名簿の作成」第3条2項「母校の発展に関する適切な事業」をすることが記されています。

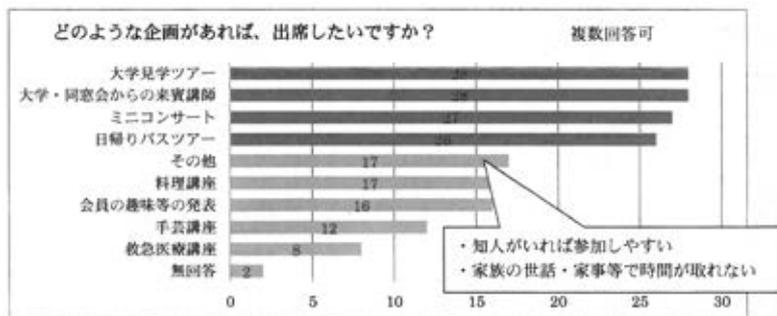
まず、会則第3条1項について述べます。「会員名簿の作成」は会員相互の親睦を図るために大切な仕事です。支部総会は2年に1度開催しています(会則第10条)。支部総会の案内状を送ったところ、毎回会員の住所不明・変更があります。その結果はその都度しらさぎ会事務局(以下、しらさぎ会と記す)へ報告して正確な名簿が作成されます。

次に、会則第3条2項について述べます。香川支部は「支部活動に新しい風を」という趣旨で平成28年から平成29年にかけて支部活動の活性化に向けて協力して活動してきました。平成28年にしらさぎ会から支部活動支援金が配分されました。支部役員会は支部活動の活性化に向けて今何をすべきかを協議しました。その結果、会員の方々の実態やご意見・ご要望を今後の支部活動に生かすことにより、支部活動の活性化につながるのではないかと考え、アンケート調査をして会員の声を聞くことにしました。調査対象者は今後の支部活動を継続・発展させるため、「仕事・私生活の両面において活躍されている年代の方」と考えて「昭和45年卒から平成13年卒の方」に依頼しました。対象者は265名でそのうち

7名の方が住所不明でした。支部役員会は会員の実態を正確に把握するために返信の目標数を100名以上に設定しました。しかし、締め切り日になっても目標数にはほど遠い数でした。そこで役員が分担して返信のいい方に電話をかけて調査に協力をお願いしました。その結果、目標の100名には届かなかったけれど93名の方から返信を得ることができました。この数は会員のご協力と役員諦めない粘り強い取り組みの結果だと思っています。次にアンケート調査結果の一部を掲載します。

「支部活動の活性化のために」

アンケート対象者 265名中 93名回答



しらすぎ会 ● 各支部だより

高知県支部

東部地区会のあゆみ

●今年12回目の東部地区会は、少しずつ成長しながら今に至っております。

平成19年に故西岡美智子先生(養護教諭の草分けであり、私も小学校6年間お世話になった)が安芸地区会を立ち上げました。講師のお話もさることながら、何よりも先輩方の絶妙なトークと前向きな生き方に魅せられた私は、毎回参加するようになりました。

平成25年度からは、西岡先生がご病気のため、私たちが世話人として企画・運営するようになりました。

平成27年度からは、香美市、香南市も含め『東部地区会』という形にして欲しいという県支部からの要請もあり、往復はがきを出すことになりました。名簿を作り始め、徐々に数を増やし、今では三百余名に。投函後は、毎日届く返信がありがたく、また、丁寧に書き添えられたコメントからは改善のヒントも頂きました。

平成28年度からは、欠席者のコメント集を作って参加者に配布し、会場は安芸と香美地区を隔年で行うことにしました。

平成29年度は、安芸市のホテルタマイで8月26日(土)に開催しました。

講師の市川典子さん(女一人、軽のライトバンで道の駅に泊まりながら70日間で日本一周をし、百名城を巡った)の美しいスライドショーに息を



のみ、そのチャレンジ精神には誰もが元気をいただきました。また、少しでも一般県民の皆様に恩返しができたらと考え、高知新聞の『こみゅっと』に公開講座の案内を出したところ、7名の参加があり30名(満席)での聴講となりました。講演後の質問も活発で大変好評であり、今年度もその講演の続編をお願いしました。

私たち世話人は、気軽に参加し、楽しんでいただける地区会を目指し、工夫改善を続けたいと思っております。皆様の参加をお待ちしています。

(東部地区会世話人 ● 岸野典子 / 生活理学科 11 回生)

東海支部

東海支部の活動を振り返って

●東海支部の活動を第1回の幹事の竹内和子さん(生活科学)の御協力を得て、雑駁(ざっぱく)ですが、振り返ってみたいと思います。

1979年(昭和54年)竹村義一先生等の御依頼により、愛知県支部を立ち上げる準備を土居純子さん(生活科学)宅に竹内さん、小林直子さん(生活科学)、石井澄子さん(英文)、田中(国文)が集まって進め、10月6日、名古屋・栄の「加茂免」で第1回を開催。大学からは徳田、清水、松崎淳子、岩貞、寺内の5名の先生方が御出席下さり、愛知県の会員80名中31名の出席で行いました。第1回は盛会の内に始めたのですが、その後、しばらくは会員の方の出産、育児等の事情で出席者も少なく途絶えがちでした。平成8年、愛知県・岐阜県の会員(愛知92名、

岐阜14名)で名古屋・一社「雪月花」で開催。出席19名。その頃はお子様連れのなごやかなものでした。その年以降は毎年継続して催しています。平成12年に東海支部として、愛知県岐阜県に加え、三重、静岡、長野、新潟の6県に拡大し、本部からの御支援もあり、現在では会員270余名の支部になっています。

青春の4年間を同じ環境で学んだからか、土佐の持つ土地柄なのか、打ち解けた和やかな雰囲気の中で、心は熱く、とても充実した時を過ごしています。問題は、若い年代の会員の方にどう引き継ぐか、ということです。今年も総会を11月10日に行います。御出席下さい。

(支部長 ● 田中智恵子 / 国文学科 10 回生)



▲しらすぎ会香川支部総会
2017年11月18日高松国際ホテルにて

アンケート結果で希望が多かった項目は、大学見学ツアー、大学同窓会からの来賓講師、ミニコンサート、日帰りバスツアー等でした。そこで早速平成29年支部総会にミニコンサートを取り入れてオーディオン演奏によるミニコンサートを実施しました。会員は演奏にあわせて歌って楽しい時間を共有することができ、非常に好評でした。香川支部は他のアンケート結果を今後の支部総会に生かしていきたいと思えます。

「支部活動に新しい風を」の趣旨のもと、支部役員会は協同体制で運営にかかわってきました。この一連の活動を通して、役員相互の信頼関係が深まり、充実感ある貴重な経験をしました。そして、今後の支部活動の方向が見えてきました。会員の方々が支部活動に参画されて支部活動の在り方を熱く語り合い、香川支部を継続・発展させてくださることを役員一同願っています。今後とも支部活動へのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

香川県支部

集まれ！同窓生

高知県立大学（高知女子大学）へのバスツアーに

●香川支部会員の皆さま、こんにちは。
 昨年の総会で、ミニコンサートを実施しました。林真弓様の演奏を聴いたり、伴奏に合わせて懐かしい歌を歌ったりしました。

《南国土佐を後にして》の歌詞に

♪国の父さん 室戸の沖で 鯨釣ったと 言う便り…♪
 がありますね。歌った後、会員さんの一人が、「私の合格電報『クジラ釣れた』だったわ。」と、つぶやかれました。「えっ、『サクラサク』じゃないの。」インターネットのない時代、受験の後、学生自治会の方に合否の電報をたのんだのです。

「なるほどね、さすが高知だね。」と納得し、学生時代の様々な思い出話に花がさきました。

さて、来年度の総会は

「どのような企画があれば出席したくなるか」の設問で回答の多かった「高知県立大学（高知女子大学）への日帰りバスツアー」です。

秋の1日、懐しい高知へ先輩・後輩いっしょに行きましょう！

同窓生の皆さま、お誘いあわせの上、より多くの方々がご参加くださいますよう、お願いいたします。

(副支部長 ● 玉木道子 / 生活理学科 5 回生)

高知県立大学（高知女子大学）への日帰りバスツアー

日 時：2019 年 11 月中旬（土曜日）
 乗車地：長尾大川バス本社・高松・府中湖 PA・豊浜 SA
 目的地：永国寺キャンパス・池キャンパス他
 昼 食：土佐料理「司」
 費 用：1 万円以内（食事代含む）

詳細問い合わせ先

嶋村洋子 087-848-0618・090-2895-2290

玉木道子 0879-43-6185・090-7620-1817



来年は母校訪問

岡山県支部

●体温をも上回る 38、39 度の猛暑が続く今年の岡山は豪雨災害、台風直撃という異例の災害に見舞われました。

これまで晴れの国、災害の少ない県として名をはせていたことが信じられない事態です。

いまや日本中どこにいても災害を免れることなどできない状況なのかもしれません。

しらさぎ会会員の皆様のご無事を願ってやみません。

しらさぎ会岡山支部では今年度も 8 月 19 日に支部総会開催の運びとなりました。多くの会員の参加を望むとこ

ろですが逆に例年ご参加くださりながらも高齢を理由にポツリポツリと参加が減っていくのはさみしい限りです。ただ、細々ながらも続けていくことで今後の会の発展を待ちたいと思っております。

来年度は念願だった母校訪問の企画を実施する予定でございます。

季節も暑い夏をはずし、秋を予定しております。

新校舎、新図書館、アリーナ、モニュメント etc 母校の今を皆さんと体感いたしましょう。

どうぞそぞってご参加くださいませ。

(支部長 ● 平岩博子 / 国文学科 21 回生)



九州支部

佐世保で同窓会しましたよ

●高知から遠い九州から、志を持って学んだ女学生、同じ学び舎から巣立った 20 代から 80 代の仲間。今回は初めて長崎でどう？という支部長の言葉、学生当時、長崎出身は少なかったから、仲間が見つかるかも？やってみようと思った。幹事なんて初めてであるがベテランの福岡の先輩が手伝ってくれた。長崎、大村、佐世保の 5 人で準備と当日の幹事をやった。2 月、準備会。お祭りがある時がいいねと「よさこいさせぼ祭り」がある 10 月に日時を決める。8 月、宛名シール貼り。先輩、後輩も休講の時は帯ぶらしたのかなー、高知城のアイスクリン食べたかなーなんて思いながら黙々と貼った約 600 枚。九州にこんなに同窓生がいると驚く。返事が 1 枚 1 枚ポスト

に届けられるのは楽しい。欠席の人も近況が書いてある。参加したいけど子育て奮闘中、介護で家を空けられない等いろいろ事情はある。私も同じ時があった。はがきでの近況報告も同窓会参加だと思った。だから、出席の方に返信ハガキは読んでもらった。佐世保自慢の九十九島を眼下に、楽しい時間はあっという間に過ぎたが、帰りには、「また同窓会で」と皆さん言っていた。足りなかった交流は次回で深めたい。欠席の方も多いけど、はがきで近況報告しあいましょう。そして、会の様子は是非、しらさぎ会のホームページをのぞいてくださいね！

(大石博美 / 看護学科 27 回生)

京阪神支部

同窓会にご参加を!!



●京阪神支部の皆様、お手元には「支部同窓会ご案内」はがきが届いているでしょうか？二年に一度の「同窓会」が下記の通り開催されます！

皆様、今春完成した新しいキャンパスはご存知ですか？私は先頃支部役員として数十年ぶりに母校を訪れ、その新しい姿に感動しました！芝生の庭には新宮晋氏作の「詩の翼」が舞い、敷地の真ん中にはガラス張りの明るく開放的な図書館、体育館アリーナ、校舎全ての建物敷地が境界のないオープンな作りで、正に県立大学にふさわしい姿です。生まれ変わった大学をしらすぎ会山崎美恵子会長より映像も含めてご紹介して頂きます。また元文学部教授吉村稠氏からも楽しいお話を伺います。更に同窓生による“おたのしみ”もあります！

昨年3月まで、私は「同窓会」には全く無関心でした。それがひょんな事から役員になり、面識のなかった方々と一緒に、「同窓生」ということで生じる不思議な連帯感

や親しみを感じながら開催準備を進めてきました。

京阪神には約900名の同窓生がいます。どうぞこれまで関心がなかった方々も是非参加して、二年に一度の集まりの機会を共有して、縦の横の繋がりを感じて下さい。お一人でも多くのご参加を、役員一同願っています。

(支部長●仲田美法/英文学科15回生)

しらすぎ会京阪神支部同窓会のご案内

日時：平成30年11月11日(日) 11:15～15:00

場所：ホテルグランヴィア大阪 20F 孔雀の間

来賓：しらすぎ会会長・山崎美恵子氏

元文学部教授・吉村稠氏

会費：8500円(食事・写真・支部会費2年分含む)

連絡先：090-6737-0098(仲田 英文 昭49年卒)



前学長南先生をお迎えして

愛媛県支部

●今年は南先生をお迎えするという事で、4月16日看護科5人が集まりました。5人の出会いは

久しぶりにもかかわらず、食事をしながら話し合いをし、同窓生であることを実感できる楽しいひと時でした。

6月24日(日)総会当日は写真撮影後、今年も学歌の斉唱からスタート。南先生から映像を使って、母校の発展の経過と現状を話していただき、参加者に驚きと喜びの表情が見られました。

南先生の同級生の漢那浩子さんから、南先生が学生時代からヒーローと呼ばれていたことが紹介され、いまや世界のヒーローとして活躍されている先生を誇りに思うと同時

に、私たちもまだまだ頑張らねばと励まされました。

近況報告では予定時間が30分も越え、それぞれの分野で充実した日々を伺い知ることができました。アンケートによると、「いろいろな人の話を聞いて刺激を受け、元気をいただいた」という声が多くありました。

今年はしらすぎ会の活動方針に従い、ひとりでも多くの同窓生に集まっていただけのように、笑いヨガと飛鳥乃湯泉の入浴券のプレゼントを計画しましたが、笑いヨガにみんなの笑顔が広がり、南先生のお話と合わせて、母校と同窓生が繋がったような気がしました。

南先生から生涯現役という言葉をしていただき、同窓生がそれぞれの立場で、これからも仕事に趣味にボランティアにますます活躍するだろうという熱気を感じました。

(幹事●蜜石和子/看護学科15回生)

関東支部

同窓会活動・イン関東支部

●関東支部の主な活動は、二年に一度の支部総会がメインになります。昨年の総会には、本部から理事の坂本ひとみさんにおいで頂きました。坂本さんは近年の高知県立大学の就職事情を詳しく話してくださいました。母校の変容や学生の事情がよく分かりました。関東支部は大学から遠いということもあり直接的には手伝い等の一翼は担えませんが、遠くこの首都圏にもある程度の学生さんが専門的な職を求めてチャレンジしていることが分かり拍手を送りたい気持ちになりました。坂本さん、ありがとうございました。

もう一つの活動は関東支部の皆様「名簿」作りです。約40年間名簿作りに力を注いできました。しかし近年の世の中の情勢からプライバシー保護ということもあり、今回の名簿で支部の皆様にお渡しするのは最後になりました。けれども支部としては名簿をきちんと把握していかないと、活動が続いていきません。今回でも前回の名簿の時

より、お亡くなりになった方、住所不明の方、そして脱会したい方など46名がありました。皆様には見えない活動ですが、大事なことだと思います。

今回も関東支部を立ち上げた大先輩が元気にそろって参加してくださいました。後輩達はちゃんと立ちあげたときの気概を継いでいっているかなと心配しながら参加して下さっていることでしょう。今回は出席者全員が大きなテーブルを囲み、親近感溢れる交流が出来ましたことは心強く思いました。仕事に没頭している時代は同窓会も忘れがちになりますが、どうぞ先輩方が歩んでこられたこの会を心にとめていつか顔を見せてくださることもあろうかとお待ちする活動です。そして遠く故郷を離れ今この首都圏で生きて頑張ってきたことに拍手を送る会になっていくと良いなと思います。

(支部長●木村育子/国文学科13回生)

山口県支部

「同窓会」について思うこと

●山口県支部では、支部総会を2年ごとに開催しています。次の支部総会は、来年です。

私にとって、支部総会は、先輩方にお会いできたり、現在の大学や高知の話の聞くことができる絶好の機会になっています。知らなかったことを知るのをおもしろく、とても新鮮です。今年の会では、しらさぎ会顧問の五百蔵副学長にお越しいただきました。あふちの木の話や現役の学生さんのご活躍の様子を聞いて、とてもうれしくなりました。

そして、今年は思いがけずしらさぎ会総会に参加させていただくことができました。会での熱のこもった意見交換に、しらさぎ会への愛着を感じました。圧倒されっぱなしでしたが、私も何かできることをしたいと考えようになりました。そこで、日常に戻ってからは、職場で出会う学生さんに、「同窓会に興味がありますか？」と尋ねてみることを始めました。返事は、「まったく意識したことがない」「縁遠いもの」「同窓会は先輩の人がいく

ものというイメージ 行ってみようとは思わない」「たとえば大学でイベントがあって、一緒に取り組もうということになったら交流できるかも」など、さまざまでした。…何事もきっかけなのだろうなあと思います。

さて、支部総会ですが、時間をつくるのが難しいので今は無理だけれど、いつか同窓会に行ってみようかなと思ったことがある方がきっといらっしやると思います。一度、「懐しい」を共有できる空間に身を置いてみられてはいかがでしょうか。

(支部長 ● 道中亜紀 / 国文学科 35 回生)



広島県支部

豪雨災害のお見舞いを申し上げます

●4年前のこの欄に、広島市の土砂災害について少し書かせていただきました。それが、また、この時期に災害に見舞われるとは…。西日本豪雨により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。同窓の皆さまの中にも色々なかたちで影響を受けた方がたくさんいらっしゃると思います。日が経つにつれ、新たな被害が報道されるようになってきています。広島県を初め各県の至る所に大きな爪痕を残した豪雨。その恐ろしさを改めてより強く感じているところです。

【支部会活動について】

2年に1回開催しています広島支部会は、今年がその年に当たります。ただ今回は、いつものかたちでの活動を

休ませていただくことにしました。近々、「支部会活動を考える会」を開くことにしています。色々な知恵を出し合いたいと思っています。開催を心待ちにしてくださっている方や新しく広島支部会員になられた皆さまにはたいへん申し訳ありませんが、“新・支部会活動”の始動に向けて少し時間をいただきたいのです。どうぞご了承ください。そして、支部会開催の折には、多くの皆さまの出席をいただくことと共に、欠席の方からの近況報告も楽しみにしております。ご提案も是非お寄せください。皆さまからの返信葉書、一枚一枚が活動の背中を押してくれます。

(支部長 ● 田中めぐみ / 国文学科 9 回生)

徳島県支部

絆と同窓会



●はじめに、7月の西日本豪雨による被害を受けられた皆様、そして復旧にご尽力されている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。6月には、大阪府北部地震があり、災害が続きます。徳島県では、南海トラフ巨大地震の警鐘をならす報道が続いています。

このような状況下で大切なことは、絆ではないかと思えます。職場、地域等でそれぞれに絆があると思えますが、同窓会もまた一つのきっかけになります。小学校・中学校の同窓会と異なり、大学では年代、専門領域、地域等が広範囲に亘ります。それだけに、新たな気づきや発見があります。関心も広がります。卒業したばかりの頃に

は先輩の姿にあこがれ、年を重ねてくると後輩に元気をもらい、矍鑠(かくしゃく)とされている方からは、生き方を学ぶ機会にもなります。

徳島支部では、今年初めて在学生5名の参加をいただきます。昨年始まったしらさぎ会の企画で、補助を頂き実現することができました。

8月19日(日曜)に支部総会を開催します。総会の様子は、しらさぎ会ホームページにアップしたいと思います。是非ご覧下さい。

次回もご参加いただきますよう、お待ちしております。

(支部長 ● 多田敏子 / 看護学科 19 回生)

平成29年度 事業報告

(1)会議について

①平成29年5月20日(土) 高知県立大学永国寺キャンパスにおいて総会開催

②平成29年6月1日(木) 新旧理事・監事引き継ぎ会

③理事会は計13回開催

④しらすぎ会会長・副会長と大 学幹部教職員との情報交換会を 8月・11月に開催

⑤平成29年11月16日(木) しらすぎ会本部理事・監事と大 学幹部教職員との合同情報交換 会開催

関係機関との連絡調整

③平成30年3月23日(金) 高知県立大学同窓会しらすぎ会 モニュメント贈呈式

④同日夜 新宮晋先生を囲みモニュメント 完成を祝う会

⑤平成30年3月24日(土) 新宮先生による記念講演会

(2)記念モニュメント建設への取 組み

①平成29年7月25日(火) 記念碑建設委員会

②平成29年9月～30年3月 記念モニュメント建設に向けた

●11支部中8支部において支部 総会が開催された

●支部企画実施は山口支部のみ

●平成29年度は、11支部35都府 県、8,013名の会員がおり、 支部のない道県は12。

●平成30年3月31日現在で、会 員数12,315名。平成30年 3月の卒業生のうち、会費納入 者は294名。

(4)学部研究科発足20周年記念行 事への協力

①高知県立大学大学院看護学研 究科創設20周年記念事業へ10万 円支援

②高知県立大学社会福祉学部創 設20周年記念事業へ10万円支援

(5)広報活動

①「会報しらすぎ第51号」発行

②高知県立大学同窓会しらすぎ 会ホームページの機能拡充およ び更新

(6)学生支援

①奨学金貸与50万円2名

②卒業式・修了式に山崎会長出



席、お祝いメッセージと袱紗贈 呈(卒業生数294)

③入学式に山崎会長出席、お祝 いメッセージと校章贈呈(入学 生数396)

④在学生対象に、津田加須子氏 を講師として「土佐から生まれ た文学に学ぶ」開催、参加39名 中在学生4名

(7)国際交流への支援

大学が全学的に募集する短期研 修に参加する学生の旅費等に対 し、30万円を支援

総会審議の中で

○会長から、課題として、支部 のない県の会員が計357名で あることや、会員が住所変更し た場合の連絡が円滑でないこと が提示された。

○会長から、30年度は理事会に おいて、在学生にしらすぎ会の 存在をPRする方策を検討して いくこと、また、ボランティア 組織の立ち上げに向けた検討を 始めたいとの意向が示された。

○京阪神支部から、活動費につ いて、会費を徴収していないた め今後が懸念されるとの声があ り、5支部から現況が報告され た。

○高知支部から、本部では学生 との交流を行っているかという 質問があり、会長からは検討中、 今後の意見を参考にしたいとの 回答があった。

会則改正 (承認後の表記)

(会員) 第4条

準会員 高知県立大学及び高 知県立大学大学院研究科の学 生(追加)

(役員) 第6条3

本会に顧問をおく。(改正)

(役員) 第8条1

会長、副会長及び理事、監事は、 推薦委員会から推薦された候 補者を総会において選任する。 (改正)

(役員) 第8条2の削除

(推薦委員会) 第20条4

推薦委員の任期は委嘱された 日から2年後の総会の日まで とする。(改正)

(推薦委員会) 第20条6

会長、副会長及び理事、監事候 補者を推薦しようとする場合 は、あらかじめ本人の承諾を得 て推薦しなければならぬ。

(推薦委員会) 第20条7

会長、副会長及び理事、監事 に立候補しようとする場合は、 会員5名以上の推薦を受けて 総会の3カ月前までに推薦委 員会に届けなければならない。

(推薦委員会) 第20条8

任期満了をみたないで辞任を 希望する理事及び監事は会長 までその旨を伝えなければな らぬ。

方についての意見が出された (関東支部) 総会は半日でよい。 どうすれば若い人と交流できる かが重要である。

(東海支部) 半日が日帰りできて よいが、交流を深めることができ なら、一日も可能。

(京阪神支部) 個人的には半日で よい。一日総会なら、内容の検 討を。

(岡山支部) 個人的には一日でも よいが、個人の意見では決めら れない。

(広島支部) 時間が足りない状況 は理解できるが、今のやり方の 検討も必要である。現状で一日 開催に賛成とは言いにくい。

(山口支部) 半日が来やすい。一 日にすると参加者決定が難しく なる。

(香川支部) 地域的に、一日開催 も可能。支部・本部・大学との 連携を考えて「来てよかった」 総会になるように進めてほしい。

(愛媛支部) 総会は半日とし、可 能な人は一日という形はどうか。 意見交換の時間が多くほしい。 夜の部もあるとよい。

(徳島支部) 総会は半日がありが たい。本部が毎月理事会を開い ていることに感謝。

(高知支部) 協議をしていない。 高知支部は、中部・東部・西部と 地区で会を行っている。

(九州支部) 半日希望が多かった が、内容次第で一日参加も可能。 総会後の観光などのこともある。

総会日程等について

○各支部から総会の日程・あり

平成29年度決算 (H29.4.1 ~ H30.3.31)

○一般会計・収入の部 (円)

項目	H29年度予算	H29年度決算	増減	備考
繰越金	4,752,429	4,752,429	0	
入会金	4,130,000	4,130,000	0	14,000円×295名 (学部生271名+院生24名)
利息	—	37		
奨学金返済金	550,000	430,000	-120,000	返還者6名
前年度寄付金	1,870	1,870	0	H28年度寄付金
その他	0	17,000	17,000	
合計	9,434,299	9,331,336	-102,963	

○一般会計・支出の部 (円)

項目	H29年度予算	H29年度決算	増減	備考
総会補助	1,200,000	1,046,387	153,613	総会開催補助金、理事等総会参加交通費
活動補助	150,000	50,000	100,000	50,000円×1支部
広報	1,000,000	307,800	692,200	会報51号10,500部
入学祝	150,000	149,688	312	330円×420個+税
卒業祝	550,000	394,200	155,800	ふくさ270個×1,460(消費税込み)
奨学金	1,000,000	1,000,000	0	貸与者2名
講演会	100,000	60,432	39,568	講師謝礼等
活動支援	300,000	300,000	0	国際交流活動支援
総会	30,000	25,832	4,168	施設使用料等
理事会等	30,000	10,530	19,470	施設使用料等
総会	500,000	346,140	153,860	代議員交通費等
理事会等	250,000	240,025	9,975	理事、監事交通費等
記念碑建設	300,000	290,342	9,658	モニュメント完成にかかわる諸費用等
小計	5,560,000	4,221,376	1,338,624	
事務費	100,000	90,235	9,765	事務用品及び備品、封筒、HP保守管理費等
賃金	750,000	701,000	49,000	
会報発送	800,000	642,325	157,675	発送費、発送用封筒等
その他通信費	300,000	327,507	-27,507	ホームページに関わる諸費用、電話、切手、振込手数料等
小計	1,950,000	1,761,067	188,933	
予備費	1,924,299	277,117	1,647,182	
合計	9,434,299	6,259,560	3,174,739	

次期繰越金 9,331,336 - 6,259,560 = 3,071,776

○特別会計・基本金 (円)

項目	H29年度予算	H29年度決算	増減	備考
繰越金	14,531,509	14,531,509	0	H28年度繰越金
入会金	295,000	295,000	0	H28年度卒業生1,000円×295名
モニュメント(詩の翼)に関する支払い	—	-1,317,511		モニュメント《詩の翼》製作費不足分 モニュメント《詩の翼》及び記念講演会等に関わる諸費用
利息	—	30,412		
合計	14,826,509	13,539,410		

○H29モニュメント募金(円) ○モニュメント支払い (円)

内訳	金額	内訳	金額
H29年度募金(現金)	3,110	モニュメント《詩の翼》製作費	8,640,000
H29年度募金(銀行振込)	0	モニュメント建立及び記念講演会等々に関わる諸費用	2,265,785
H29年度募金(郵便振込)	6,000	合計	10,905,785
手数料	-130		
合計	8,980		

募金総額 + 特別会計基本金 (H27年度・H28年度 + H29年度) = 10,905,785
6,766,114 + (2,822,160 + 1,317,511) - 10,905,785 = 0

○モニュメント募金総額 (円) ○H29寄付金(一般) (円)

内訳	金額	内訳	金額
H25年度募金	3,830,750	H29年度募金(振込)	3,000
H26年度募金	1,299,352	手数料	-80
H27年度募金	1,480,892	合計	2,920
H28年度募金	143,220		
H29年度募金	11,900		
合計	6,766,114		

○在学生預かり金 (円)

項目	H28年度決算	備考
繰越金	19,412,232	H25 = 310人(他に学部生3名未納)、H26=303人(他に学部生6名未納)、 H27 = 317人(他に学部生29名未納)
H28年度入学生	5,385,000	15,000×359(学部生364名<内16名未納>)+院生31名)
未納者入金	270,000	15,000×18人(H25入学生1名、H26入学生2名、H27入学生13名、院生2名)
H27年度卒業生	-4,515,000	15,000円×301(学部生272+院生29)人 <本学学部および研究科出身者を除く>
利息	51,399	
退学者返金	-225,000	15,000×15名 H27年度退学者返金
振込手数料	-1,728	
合計	20,376,903	

平成30年度予算 (H30.4.1 ~ H31.3.31)

○一般会計・収入の部 (円)

項目	予算	備考
繰越金	3,071,776	平成29年度繰越金
入会金	4,158,000	14,000×297名(学部生278+院生19)
利息	—	奨学金返済金口座も含む
奨学金返済金	340,000	返還者7名
寄付金	—	
その他	—	
合計	7,569,776	

○一般会計・支出の部 (円)

項目	予算	備考
総会補助	1,000,000	総会開催補助金、理事等総会参加交通費
活動補助	100,000	50,000円×2支部
学生活動支援	300,000	国際交流支援等
奨学金	1,000,000	500,000円×2名
広報	400,000	会報52号11,000部印刷
入学祝	150,000	330円×400個+a
卒業祝	550,000	1,500円×350個+a
総会	30,000	施設使用料等
理事会等	30,000	施設使用料等(実費)750円×(12回+a)
総会	500,000	代議員交通費等
理事会等	250,000	理事、監事、編集小委員等
小計	4,310,000	
事務費	100,000	事務用品及び備品、封筒等
賃金	750,000	1,000×(6×8)×12+6,000×12+2,000×12+22,000×2+a
会報発送	750,000	発送費、発送用封筒等
その他通信費	150,000	ホームページに関わる諸費用、電話、切手、振込手数料等
小計	1,750,000	
予備費	1,509,776	
合計	7,569,776	

○特別会計・基本金 (円)

項目	予算	備考
繰越金	13,539,410	平成29年度繰越
入会金	297,000	平成29年度卒業生1,000円×297名
利息	—	
合計	13,836,410	

○在校生預かり金 (円)

項目	予算	備考
繰越金	21,357,099	平成29年度繰越
平成30年度入学生	5,715,000	15,000円×381名
平成29年度卒業生	-4,455,000	15,000円×297名
利息	—	
退学者返金	-360,000	15,000円×24名 平成29年度退学者返金
合計	22,257,099	

監査報告
領収書、出納簿、預金通帳等監査した結果、財務が適正に処理され、誤りなどの問題がないことを認めます。

平成30年4月5日
会計監査 永尾 朱美 西原 純子

●退職 平成29・10・8
社会福祉学部教授 林美朗 (平成30・3・31)
文化学部教授 芳生裕信 地域教育研究センター
教授 宇野浩三 社会福祉学部准教授 山村靖彦
同講師 井上健朗 同講師 鳩間亜紀子
助教 上田恵理子 同助教 鈴木裕介 看護学部
助教 吉岡理枝 健康栄養学部助教 田中守
看護学研究科特任准教授 Ngaru Nandou Roger
健康長寿センター特任助教 野村陽子
●採用教員(平成30・4・1)
文化学部講師 田中裕也 看護学部教授 畦地博子
同助教 中井美喜子 同助教 幸崎若菜
社会福祉学部助教 大熊絵理菜 健康長寿センター
特任教授 久保田聡美 健康長寿センター特任助教 坂本和子

人事消息 (敬称略)

立志社中で活動中の COME ☆ RISH



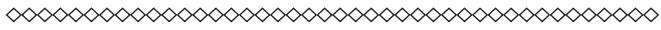
COME ☆ RISH が平成 30 年度「第 2 回食育活動表彰」ボランティア部門において、農林水産大臣賞を受賞しました。

COME ☆ RISH は健康栄養学部の管理栄養士を目指す学生たちが立ち上げました。学生の地域活動を助成する教育プログラム「立志社中」に参加し、今年度で 6 年目になります。中土佐町大野見地区で栽培されている特別栽培米（大野見エコ米）の美味しさを伝えるため、農作業体験や米の官能試験等から得た経験や学びを、学生主催の料理教室や定食屋の運営、また地域イベント等で還元し、米の普及・消費拡大活動を行っています。

平成 30 年 6 月 23 日（土）に「第 13 回食育推進全国大会 in おおいた」で行われた第 2 回食育活動表彰式に前代表・副代表の学生 3 名と教員 2 名が出席しました。

6 年前、大野見地区の田植えに学生が誘われたことから始まった活動ですが、常におおのみエコロジーファーマーズの皆さん、中土佐町の職員の皆さん、大学のご指導・ご支援に支えられ、泣いたり笑ったりの日々でした。学生たちは今や農家さんから学んだ「おいしいごはんの炊き方」や、食育を地域に還元できるようになるまで成長することができました。そして活動という稲が実るように、多くの方が評価してくださったことに、深謝いたします。

健康栄養学部 講師 島田郁子



図書館で新宮晋先生の著書を展示しています。講演会の隣で展示していたものをしらすぎ会から図書館に寄贈したものです。



「土佐から生まれた文学に学ぶ」



平成 29 年 12 月 9 日（土）14 時から 15 時半まで永国寺キャンパスで、高知県立文学館の津田加須子学芸課長をお招きして、学生支援事業の文学講座を開催しました。

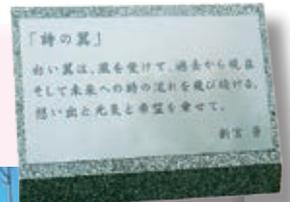
高知市永国寺町（旧北与力町）出身の小山いと子さん（1901～1989）の作家活動について、主に紹介していただきました。昭和 25 年「中央公論」に発表した『執行猶予』で、第 23 回直木賞を受賞した作家です。当時は、まだまだ女性作家に対して風当たりが強く、昭和 29 年「中央公論」に発表した『ダム・サイト』では、「ダム・サイト論争」という社会現象まで引き起こしました。女性ということだけで作品を正当に評価されなかった当時において、女性作家の地位向上を図るため同業者が力を合わせていたこともわかりました。社会派作家としての小山さんの偉大な足跡を知ることができました。

学生、教職員、卒業生、一般の方々が机を並べて学習することによって、目の前に、また一つ違う新しい世界が広がる一日でした。

（感想）昭和の時代、高知生れの社会派作家がいたことを知りませんでした。小山いと子さんを今のこの時代に一度読んでみたいと思いました。ダム開発にからむ社会のウラとオモテを文学にという点、時代を感じます。



3月6日(火)にモニュメント据え付け作業があり、立ち会いました。



箏曲部



私は現在箏曲部に所属しています。箏曲部の主な活動は入学式や卒業式での演奏、地域のお祭りや老人ホームを訪問し演奏を行なっています。

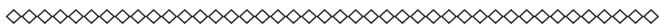
私自身、大学に入学するまでお琴どころか音楽経験がない全くの初心者でした。しかし、練習を重ねていくうちに、お琴を弾くことが大好きという気持ちが一層強くなり、未経験という不安は吹き飛んでいきました。今では、お琴を弾くことが楽しくなり、生涯続けたい趣味にもなりました。

このサークルでは、いろいろなイベントに参加するので、多くの人と触れ合うことができます。地方の小学校で演奏をした時にお年寄りの方や子供達に「なかなかお琴の演奏を聞く機会がなかったので、初めて琴の音色を聞いた。音色がとても綺麗で演奏を聞くことができよかったです。」とよく声をかけられました。そこで私たちの演奏で人を喜ばすことができることに気づき、お琴をやっているよかったですと実感しました。こういった温かいお声掛けもいただき、よりいっそう私たちの励みになりました。

また箏曲部はやりがいや達成感を多く感じることができます。例えば一曲ずつ練習を積み重ねていくうちに、できなかった技法ができるようになったり、息の合った演奏ができた時の達成感は何ともいえないものでした。今後の活動としては、1月5日に行う定期演奏会に向けて日々精進していきたいと思っております。お時間がある方は、是非お越しください。

今後も様々なイベントに参加をし、多くの人にお琴の魅力が伝わるように活動を続けていきたいです。

文化学部3回生 近藤夕夏



*新役員体制 奨学金担当 塩見理香

編集後記

素人の2人が手探り状態で取り組んだ2年間の編集でした。今回も無事会報をお届けすることができました。みなさまのご協力にお礼を申し上げます。

広報担当理事 仁尾 郁・水田佐智子

しらさぎ会連絡先

- 事務局 (Fax・mailは常時)
☎ Fax 088 (872) 0580
mail : sirasagi@cc.u-kochi.ac.jp
- http://www.u-kochi.ac.jp/~sirasagi/
- 事務局員勤務 木&金
9時30分～16時00分
- 支部掲示板ができました。ホームページをご覧ください。
- 住所変更等、お知らせください！
- ※ 同窓会費は終身会費として入学時に納入されています。会報が届かないのは現住所不明等のためです。

オーテピアンズ



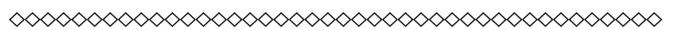
私たちオーテピアンズは、2018年7月24日に開館いたしました「オーテピア高知図書館」を拠点に活動するサークルです。「誰でも、利用しやすい図書館に。」を理念に、地域の皆さまに寄り添う活動を行なっていきたくて考えております。

主な活動内容は、セルフ式の貸出機、予約機などの取り扱いのお手伝い、大人のための読み聞かせ、ビブリオバトルの運営などを計画しております。

オーテピア高知図書館は、知の拠点としてさまざまな年代の方が利用されます。10代の利用者の方には、親しみやすい同世代のような存在として。お年を召された利用者の方には、すぐそばにいる孫のような存在として。機器を扱うことがあまり得意ではない利用者の方には、機器の使い方を覚えていただくきっかけとなる存在として。私たちオーテピアンズは、地域の皆さまに寄り添う、多様な存在になれるよう日々心がけております。

2018年4月に設立した新しいサークルですが、これまで高知県立大学が培ってきた、地域の皆さまと共に活動する力を土台とし、今後の活動を展開していきたいと考えております。

文化学部3回生 下田雪乃



*文化学部改組20周年事業として、改組20周年を記念する『学的高知ガイドーこだわりの歩き方』を平成30年度末に出版します。

平成30年度各支部会員数(30年3月卒業生を含みます) 人		
関東支部 (東京、神奈川、埼玉、千葉、茨木、栃木、群馬、山梨)	498	(うち新加入6)
東海支部 (愛知、岐阜、長野、三重、静岡、新潟)	277	(うち新12)
京阪神支部 (大阪、京都、奈良、和歌山、兵庫、滋賀)	890	(うち新37)
岡山県支部	264	(うち新9)
広島県支部	236	(うち新13)
山口県支部	65	(うち新3)
香川県支部	495	(うち新13)
愛媛県支部	611	(うち新20)
徳島県支部	615	(うち新14)
高知県支部	3,602	(うち新107)
九州支部 (福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)	552	(うち新13)
以上、11支部35都府県に居住の卒業生	8,105	(うち新加入247)
支部の無い県に居住(支部に属さない)卒業生	376	(うち新加入25)
国外在住者	42	
物故者	254	
大学院生の内学部卒業生	148	
居住地不明者、その他	3,409	
平成29年4月末現在の卒業生の総数は12,334人		
学部卒業生・大学院修了生の総数=12,334人(8,105+376+42+254+148+3,409)		